



感染症週報



(三宅管内感染症発生動向調査報告)

令和7(2025)年 第6週 (2/3 ~ 2/9)

三宅島 感染症の報告はありません

御蔵島 感染症の報告はありません

(三宅管内感染症発生動向調査より集計)

東京都の注目される定点把握対象疾患 <東京都感染症週報 第5週>

- ・伝染性紅斑の定点当たり報告数は、1.79で前週(2.28)より減少、警報レベルが継続しています。
- ・インフルエンザの定点当たり報告数は、3.79で前週(6.60)より減少、今後の動向に注意が必要です。
- ・新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は、3.70で前週(3.50)より増加しています。

島しょの情報 (11島の医療機関からの報告) <第6週 (2/3 ~ 2/9)>

- ・インフルエンザの医療機関あたりの報告数は、0.36で前週(0.55)より減少しています。
 - ・新型コロナウイルス感染症の医療機関あたりの報告数は、0.64で前週(0.82)より減少しています。
- 油断せず状況に合わせて、手洗い・咳エチケット・部屋の換気の基本的な感染対策を続けてください。

世界の三大感染症とは・・・

● 世界規模で感染症をみると、エイズ・結核・マラリアは、合わせて毎年230万人以上もの命を奪い、「世界の三大感染症」と呼ばれています。国際的支援の結果、感染拡大の勢いは低下していますが、いまだに多くの低・中所得国で主要な死因の一つであり続けています。

● HIV：HIV ウイルスに感染した人の血液などの体液によって感染します。HIV ウイルスに感染し発症すると、他の病気に対する抵抗力が弱くなり、いろいろな病気にかかります。病気が進行すると死亡することがあります。サハラ以南のアフリカ、ロシア、アジア、中南米の一部の地域で流行しています。

● マラリア：マラリア原虫をもった蚊（ハマダラカ属）に刺されることで感染します。感染地域はアフリカの熱帯・亜熱帯地域が90%以上を占め、発熱、寒気、頭痛、嘔吐、関節痛、筋肉痛などの症状が出ます。

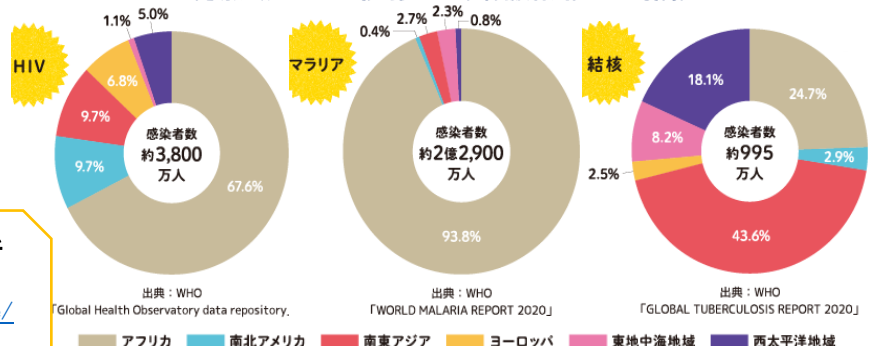
● 結核：結核菌に感染することによってかかる病気で、肺結核患者の咳やくしゃみなどによって、空気中に結核菌が飛び散り、周りの人がその結核菌を吸いこむことにより感染します。世界中で発生していますが、特に東南アジアとアフリカで多く発生しています。(参考：JICA 国際協力機構 HP、JCIE 日本国際交流センターHP)

● 日本の HIV 感染者数は 893 人うち死亡 53 人、マラリアの感染者数は 31 人うち死亡 0 人、結核の感染者数は 14,798 人うち死亡 1,664 人でした。(令和4年(2022)

人口動態統計：厚生労働省 感染症発生動向調査：国立感染症研究所)

感染者数の地域別割合

(感染者数はいずれも推計値 JICA 国際協力機構 HP より引用)



《編集・発行》 東京都島しょ保健所 三宅出張所
電話 04994-2-0181 FAX04994-2-1009

<https://www.hokeniryo.metro.tokyo.lg.jp/tousyo/miyake/>

島しょ保健所三宅出張所管内 感染症発生動向調査

三宅出張所管内 定点把握対象疾患報告数

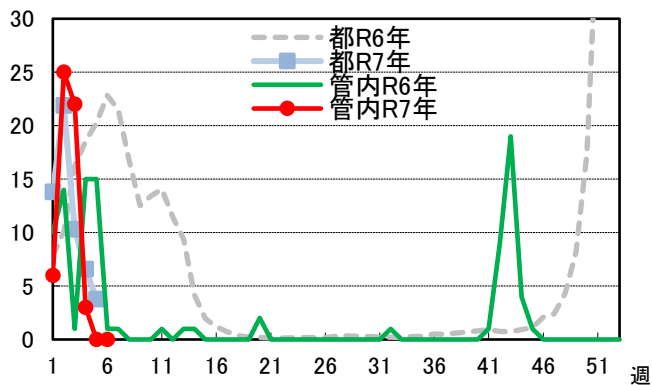
令和7(2025)年	第 6 週	令和6年 2/3 ~ 2/9				
疾病名 (小児科定点及びインフルエンザ/ COVID-19定点)	令和7(2025)年				令和7(2025)年 累計	東京都 定点あたり 5 週
	3 週	4 週	5 週	6 週		
RSウイルス感染症					0 (0)	0.66
咽頭結膜熱					0 (0)	0.21
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎					0 (0)	2.55
感染性胃腸炎					0 (0)	8.65
水 痘					0 (0)	0.23
手 足 口 病					0 (0)	0.05
伝染性紅斑					0 (0)	1.79
突発性発しん					0 (0)	0.19
ヘルパンギーナ					0 (0)	0.01
流行性耳下腺炎					0 (0)	0.03
MCLS(川崎病)					0 (0)	0.03
不明発しん症					0 (0)	0.02
インフルエンザ	22 (2)	3 (0)			56 (3)	3.79
新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)		2 (2)			11 (2)	3.70

※カッコ内: 御蔵島報告数の再掲

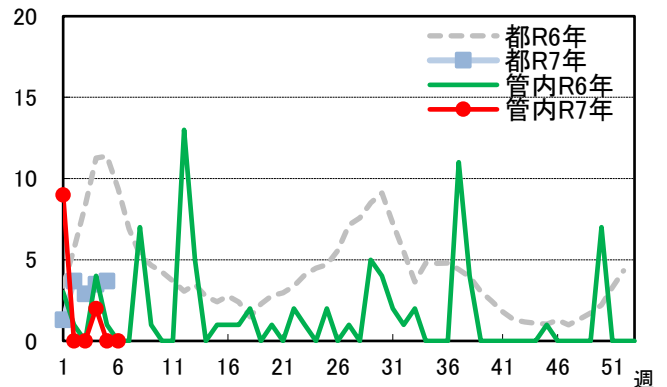
【三宅島出張所管内】患者報告数推移グラフ

管内は三宅・御蔵両島の発生数計
都は定点あたり発生数

■ インフルエンザ



■ 新型コロナウイルス感染症



※5類感染症は、感染症発生動向調査を通じ皆さまに情報提供をすることにより、
感染症の発生および、まん延・拡大を防止することが目的です。

東京都のインフルエンザの定点あたりの報告数は、警報基準を下回りました。
報告数は減少していますが、感染陽性者がいなくなったわけではありません。
今後の患者報告数を注視し、油断せず状況に応じて、
部屋の換気・咳エチケット・手洗いの基本的な感染対策を続けてください。